

## 人を育み、新たな挑戦へ ～「人づくり日本一」を目指して～

令和5年1月5日 いわき市長 内田広之

いわき市民の皆様、新年おめでとうございます。

皆様には、新春を健やかに迎えのことに、心よりお慶び申し上げます。

令和5年の年頭にあたり、私の決意と所信の一端を述べさせていただきます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症への対応が長期化しており、社会経済活動の促進と感染拡大防止対策の両輪で取り組んできました。ワクチン接種や基本的な感染防止対策の徹底など、市民の皆様、事業者の皆様の御努力と御協力に対し、改めて感謝を申し上げます。しっかりと感染防止対策を講じつつ、社会経済活動をさらに推し進めていく段階となっています。

また、コロナ禍と併せ、ロシアのウクライナ侵攻に伴う物価高騰等により、多方面にわたる市内経済への影響も長期化しております。関係団体の皆様の声を直接お聴きしながら、市民・事業者の皆様への支援や、経済活動回復に向けた対策を講じているところであります。経営体質の強化や業態転換などに取り組む意欲ある事業者の皆様の挑戦をしっかりと支援し、確かな未来をつかみとるため、全力を尽くしていきます。

人づくりこそが私の政策の「一丁目一番地」です。社会の進展が、人々の活動の積み重ねで成し遂げられてきたことは、これまでの歴史が証明しています。

本市が激動の時代を乗り越え、どのようなまちになるのかは、市民一人ひとりの多種多様なチャレンジの積み重ねにかかっているといっても過言ではありません。

あらゆる分野で、市民の皆様のチャレンジ機会の創出に注力し、「人づくり日本一」を目指します。

新たな試みとして、市民の皆様とまちづくりの方向性を共有するため、令和5年度の政策の方向性と、その政策を支える構造改革の取組みをとりまとめた『いわき版「骨太の方針」』を策定しました。

人づくり日本一の実現に向けて「次世代を育てる」、「命・暮らしを守る」、「まちの魅力を高める」の3つの柱で政策を推し進めます。行政DXの推進やサービス・インフラの最適化などの5つの改革にも併せて取り組み、持続可能な行財政運営の構築につなげていきます。

力を入れていきたい主な取組みを中心に申し上げますと、まず「教育」についてです。

新たに設置した「学力向上チーム」により、各種学力調査や市独自アンケートなどを複合的に分析し、数値化できない自己有用感などの非認知能力等も含めた「学校カルテ」の作成を進めています。学力向上チームと各学校の連携により、エビデンスに基づいた授業

改善や各学校が抱える課題等への効果的な指導・助言を行い、学力向上に取り組みます。

また、特別支援教育においても、発達障がいの可能性のある子どもを含め、障がいのあるすべての子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、さらに充実させていきます。

さらに、経済的負担等も多い、多子世帯における子育て環境の充実に向けた学校給食費の負担軽減についても検討を進めます。

次に、「防災」についてです。

防災の基本は「自助・共助・公助」の力を結集することであり、防災士のさらなる養成や、新設した登録防災士制度の普及促進により、共助の担い手となる自主防災組織を充実強化します。

また、避難する際に支援を必要とする方の確実な避難体制を確立し、本年度協定を締結した東北大学災害科学国際研究所の知見も活かしながら、「逃げ遅れゼロ」「災害死ゼロ」の危機管理モデル都市の構築に向け、さらに取組みを推し進めます。

次に、「医師の確保」についてです。

「いわき市医療構想会議」を中心に、診療科ごとに確保すべき医師の数を明確にし、医師会、病院協議会の皆様と一緒に解決の知恵を出し合います。そして、実現に向けたハードルを一つひとつ乗り越えて、計画的・長期的な視点で粘り強く医師確保に取り組んでいきます。

また、将来を見据えた医療人財の育成に向けた取組みにも注力していきます。総合的な学習の時間等を活用し、小・中学生が医療に関心を持つ機会の拡充に努めます。磐城高校に医学コースが設置され、現在、医師会などとも連携し、現場で働く医師とのワークショップや県立医科大学の見学などの取組みも進めています。

これらの取組みを通じて、市民の皆様の地域医療の充実を図るとともに、安心して自分らしく暮らしていけるよう、健康づくりと地域福祉のさらなる推進にも取り組みます。

次に、「産業の振興」についてです。

若者や女性が活躍する「魅力的な働く場」を創出し、将来の活力となる若者や女性を呼び込む取組みを、組織体制を強化して進めます。

国が世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」を目指し、設置を進めている福島国際研究教育機構との連携について、市内産学官が一体となって、新たなイノベーションで雇用創出や若者還流を目指します。

多様な働き方や外部人財の活用など、産業人財の確保と育成に注力します。

また、「強い企業づくり」に向け、スタートアップや事業再構築など、企業の成長フェーズに合わせたチャレンジを後押しし、技術やサービスの開発・販路開拓の支援、本社機能誘致などにより、生産性や付加価値を高め、稼ぐ力を生み出します。

さらに、農林水産業においても、戦略的にブランド化を進め、持続と自立が可能な「稼げる一次産業」の実現に向け、着実に取組みを推し進めます。

次に、「観光・文化・スポーツによるまちづくり」についてです。

本年は、いよいよ、J2に昇格したいわきFCの熱い闘いが、いわきグリーンフィールド

ドをホームスタジアムとして繰り広げられることとなります。今や、市民のシンボルとなったいわきFCの躍進を地域の活力に生かし、経済の好循環や観光振興、市民の誇りや一体感の醸成につなげ、スポーツによる人づくり、まちづくりを進めます。

また、文化の面においても、いわきが生んだ著名芸術家のお力を借りながら、子どもたちが一流に触れ、豊かな感性と創造性を育む機会の創出にも取り組みます。

最後に、これらの政策を支える「構造改革」についてです。

厳しい時代環境の中、今般打ち出した政策を着実に進めるためには、相当の覚悟をもって、改革に取り組まなければなりません。未来につながる決断、つまり、「あれも、これも」ではなく、「あれか、これか」を選択していくことが必要不可欠です。

様々な取組みに挑戦していくうえでは、「機能する組織」への変革も重要です。このような考えのもと、手続きや相談のオンライン化、キャッシュレス化、お出かけ市役所サービスの充実、市公式LINEなど、市民利便性の向上を図りながら、必要とされる行政サービスへの人材と資金の再配分を進めていきます。

また、人事制度改革を通じて、一人ひとりの職員がモチベーションを最大限発揮し、創造的に取り組める環境整備を図りながら、組織の見直しにも着手し、政策と一体となった体制強化を進めていきます。

躊躇なくこれらの取組みを進め、柔軟で持続可能な行財政運営を構築します。

以上、令和5年の市政運営にあたり、その考え方の一端を申し上げます。

今後も、現場主義に徹しながら、各分野で挑戦する皆様の生の声をしっかりと受け止め、紡いできた絆を大切にしながら、歩みを止めることなく様々な取組みに挑戦してまいります。

困難を乗り越え、飛躍していく可能性がいわきにはあります。ふるさといわきを未来に向かって共に挑戦し、躍動する「人づくり日本一」のまちにしていく。私の揺るがない決意であります。

引き続き、全身全霊を傾けて、市政運営に邁進してまいります。皆様の一層の御支援と御協力をお願いし、また、本年が皆様にとって、明るく希望あふれる飛躍の年となることを祈念いたしまして、年頭のあいさつといたします。